

事業コード	H17-農-新-2		区 分	国庫補助	県単独
事業名	ほ場整備事業(担い手育成型)実施計画		部局課室名	農林水産部 農山村振興課	
事業種別	補助事業(ほ場整備事業)		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855	
路線名等	藤里町		担当課長名	佐藤 充	
箇所名	藤琴地区		担当者名	主幹(兼)班長 佐々木 次郎	
総合計画との関連	政策コード	N	政 策 名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興	
	施策コード	04	施 策 名	新時代に躍動する多様な農業経営体の育成	
	指標コード	05	施策目標(指標)名	ほ場整備率	

## 1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H23 (6年)		総事業費	16.4億円	国庫補助率	50%	
事業規模	区画整理A=109ha(戸数129戸)						
事業の立案に至る背景	<p>本地域は、藤里町有数のまとまりのある営農団地であるが、現況ほ場は10aの小区画で地下水位も高く、農道は狭小で水路も用排兼用の土水路であることから、営農効率が非常に低く、水稻の安定経営はもとより畑作物の導入にも大きな支障となっている。</p> <p>こうしたことから本地区では、ほ場整備の実施により、農業生産法人と担い手農家への農地の利用集積を促進し、経営形態を早急に改善する計画を立案した。</p> <p>また、水稻、大豆の低コスト生産により町の戦略作物である山ウド、アスパラの作付面積を拡大し、藤里町の農業経営のモデルとなる複合経営を早急に確立するため、事業の立案に至った。</p>						
事業目的	<p>既存の農業生産法人の経営規模拡大と新たな農業生産法人の設立、担い手農家8戸を育成することにより、農地の利用集積を促進し、安定的な経営基盤を有する地区の担い手を確保する。</p> <p>汎用水田を整備し、水稻・大豆の土地利用型作物の営農コストを縮減し、町の戦略作物である山ウドとアスパラの作付面積を大幅に拡大する。</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	事業費		1,640,000	60,000	400,000	410,000	770,000
	経費内訳	工事費	1,402,000		350,000	360,000	692,000
		用補費					
		その他	238,000	60,000	50,000	50,000	78,000
	財源内訳	国庫補助	820,000	30,000	200,000	205,000	385,000
		県 債	370,000	15,000	99,000	101,000	155,000
その他		328,000	12,000	80,000	82,000	154,000	
	一般財源	122,000	3,000	21,000	22,000	76,000	
事業内容			全体実施設計	区画整理工 A=30ha	区画整理 A=20ha	区画整理 A=49ha	
調査経緯	<p>・平成16年度 基礎調査(調査費4,900千円~県費2,450千円、地元2,450千円)</p> <p>・平成17年度 農業農村整備実施計画調査 (調査費6,000千円~国費3,000千円、県費1,200千円、地元1,800千円)</p>						
上位計画での位置付け	「新時代に躍動する多様な農業経営体の育成」を支援する事業						
関連プロジェクト等	なし						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>・米価の低迷、転作の拡大、農産物輸入による国産野菜の価格下落等が進展するなか、多様な消費者ニーズに対応した農産物の供給等が求められており、一層の農業生産コストの縮減を図るとともに、地域の担い手を育成し、地域間競争に耐えうる足腰の強い農業生産体制を構築する必要がある。</p>						
事業効率把握の手法	指 標 名	評価箇所における担い手が経営する面積割合					
	指 標 式	地区内の担い手の経営面積÷ほ場整備地区面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無		有 無	
	目標値 a	35 %		データ等の出典	基盤整備関連経営体育成等促進計画書		
	達成値 b	50 %					
達成率 b/a	143 %		把握の時期	平成17年 7月			

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	本事業の目的は、基盤整備を契機とした担い手の育成であり、農業県である本県農業の将来を支える農業者の育成は県の積極的かつ主体的な関与が必要である。また、担い手による効率的な営農には、農地の大区画化や農道・用排水路の整備が必要不可欠である。各種アンケートから安全・安心かつ安く新鮮な県産品の消費に対する県民ニーズに応えるためには生産条件の整備、農地集積及び経営規模拡大による生産コスト低減が必要。	18点
緊 急 性	○藤里町では、農地の集積や農業生産法人・担い手農家の育成を図るため当地区のほ場整備を最優先課題とし、町の農業農村整備事業の実施計画を取りまとめた事業管理計画の中で本地区を最優先事業として位置付けている。 本地域では高齢化の進行に伴う後継者不足が深刻化しており、平均農地所有面積も1ha弱と小規模農家が多く、担い手の早急な育成と安定的な営農体制の確立が急務である。	18点
有 効 性	○本地区の実施により地域の担い手として農業生産法人2組織と担い手農家8戸を育成・強化することは、21計画の「新時代に躍動する多様な農業経営体の育成」に合致する。 ○大区画化による営農経費の節減と認定農業者への農地利用集積による経営基盤の強化。 ○用排水路の整備による維持管理費の節減及び汎用農地の創出により、藤里町の戦略作物である山ウド、アスパラの作付規模を拡大し複合経営を促進する。	18点
効 率 性	○単収増加効果、品質向上効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、更新効果等の効果が見込まれ、10aあたり事業費は、県平均の160万円を下回る。 ○地形条件に応じた区画形状と道水路の配置、土質や排水条件に応じた暗渠排水の配置や暗渠排水の管種の見直しなどの具体的なコスト縮減計画を樹立し、より効率的な事業を実施する。投資効率B/C=1.24。	18点
熟 度	平成16年に受益者全員の同意を得、地域営農のあり方について集落ぐるみで協議を重ねており、その実現に向けて藤里町、JAあきた白神、山本地域振興局法人化支援チームが一体となり支援している。 農業生産法人が、創出された労働力の有効活用による複合経営を促進し、水稻直播栽培の導入についても積極的に検討しており、事業への取り組みが主体的である。	18点
判 定	ランク ( ) 農業生産法人の育成・強化や戦略作物である付加価値の高い山ウド、アスパラの促成栽培の規模拡大など地域の特徴を活かした事業計画の熟度が高く、各観点とも平均して高い評価点を得ており、総合的な評価点は高い。	90点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 既存の農業生産法人の経営規模の拡大と新たな農業生産法人の設立により、地域特産の山ウド、アスパラの作付規模を拡大する営農計画が確定しており、今後の藤里町のモデルとなる積極的な営農展開が期待できることから本事業を実施すべきと考える。	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
	選定	改善して選定	保留
本事業の実施により、大規模稲作と畑作を組み合わせた2つの複合型の農業生産法人と8戸の担い手農家が育成されるほか、地区内の4割を占める担い手以外の農家についても、稲作の省力化で生じた労力を活かし、山ウド・アスパラガス・大豆などの畑作部門の拡大を図るなど、体質の強い農業経営が実現されることから、本地区の選定は妥当と判断される。			

## 4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
	選定	改善して選定	保留
当該地区は、町の戦略作物の作付けを拡大し、町の複合経営のモデルを目的としているものの、集積率、生産性の向上の点で低い計画目標であることから、より高い計画目標を設定した場合に選定すべきである。			

## 5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
	選定	改善して選定	保留
事業の実施は妥当である。			

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該箇所を国に新規要望する。</li> <li>・事業実施に当たっては、コスト縮減に努める。</li> </ul>
---

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。
------------------

評価種別 新規箇所評価  
適用基準名 ほ場整備事業

事業コード (H17-農-新-2 )  
箇所名 ( 藤琴地区 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性	法令等で県が実施する事業	5	5	要綱・要領	
	県関与の必要性	県が実施すべき広域的な事業	3			
	県が実施した方が望ましい事業	1				
	県民のニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い	5	5	県民意識調査	
		一般県民を対象とした調査でニーズを把握	3			
		一般県民を対象とした調査を行っていない	1			
	社会経済情勢変化による需要変化	増大している	5	5	農林水産統計情報	
		特に変化はない	3			
		低下している	1			
	労働生産性の現状	未整理地域である	5	3		
10a(一部20a含む)区画であるが、農道の殆どが狭い		3				
上記以外		1				
計			20	18		
緊急性	事業未実施の影響	事業効果や効率性、周辺への影響等が大きい	5	5		
	周辺への影響	事業効果や効率性、周辺への影響等は小さい	3			
	事業効果や効率性、周辺への影響等はない	1				
	受益者の高齢化状況	60歳以上の耕作者が40%以上であり、後継者不足である	5	5		
		60歳以上の耕作者が30%以上40%未満であり、後継者不足	3			
		60歳以上の耕作者が30%未満	1			
	排水不良状況	地下水位が非常に高い。(30cm未満)	5	5		
		地下水位が高い。(30cm以上~50cm未満)	3			
		上記以外	1			
	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い	5	3	3	
他事業との関連	関連する他事業性はないが、単独で十分な効果がある	3				
計	20	18				
有効性	上位計画への貢献度	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5		
	あきた21総合計画	施策目標に間接的に貢献する	3			
	施策目標とは別のその他関連事業である	1				
	期待される具体的効果	大区画化計画	1ha以上の区画が50%以上(中山間の場合、標準区画が30a以上)	5	5	
		1ha以上の区画が35%以上50%未満(中山間の場合、標準区画30a以上)	3			
		1ha以上の区画が25%以上35%未満(中山間の場合、標準区画30a以上)	1			
	農地集積計画	認定農業者等担い手への農地集積率が市町村目標より2割以上	5	3		
		認定農業者等担い手への農地集積率が市町村目標以上となる	3			
		上記以外	1			
	営農計画	飼料作物の作付が25%以上、又は奨励作物の導入が図られる	5	5		
飼料作物(麦・大豆等)の作付が地区面積の10%以上25%未満		3				
飼料作物(麦・大豆等)の作付が地区面積の10%未満		1				
計			20	18		
効率性	事業の投資効果	B / C = 1.1以上	5	5		
	費用対効果	B / C = 1.1未満	3			
	事業実施コストの縮減	具体的なコスト縮減計画がある	5	5		
	コスト縮減計画	具体的な計画はないが、検討中	3			
	事業費単価	県平均値より安い	5	5		
	10a当たり事業費	県平均値より高い	3			
	基幹水利施設状況	整備状況	用排水施設とも整備済み	5	3	
		用排水のいずれかの施設を当該事業で整備予定	3			
		用排水施設とも当該事業で整備予定	1			
	計			20	18	
熟度	地元との合意形成の状況	全員の同意が得られている	5	5		
	同意状況	未同意者が存在するが、事業実施に支障がない	3			
	未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	1				
	事業推進体制	事業推進体制が整っており、協議を重ねている	5	5		
		事業推進体制が整備されている	3			
		上記以外	1			
	各種協議の進捗状況	進捗状況	必要な協議を了しており、基本的事項が確認されている	5	5	
		協議中であり、合意が得られる見込み	3			
		未協議	1			
	環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮	対策を検討済み	5	3	
対策を検討中		3				
計		20	18			
合計			100	90		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		